

平成 16 年度事業報告

自 平成 16 年 4 月 1 日 至 平成 17 年 3 月 31 日

1. 会員状況 (平成 17 年 3 月 31 日)

名誉会員	11 名	前年度末 (16 年 3 月 31 日) より 1 名増
正会員	1,238 名	前年度末 (") より 5 名減
学生会員	21 名	前年度末 (") より 4 名減
公益会員	14 所 14 口	前年度末 (") より 1 所 1 口減
賛助会員	131 社 160 口	前年度末 (") より 3 社 3 口減
購読会員	146 社 153 口	前年度末 (") より 8 社 8 口減

2. 規則の改廃

- ・「騒音制御」投稿執筆要領の改訂 平成 17 年 2 月 1 日
- ・組織及び運営に関する規程の改訂 平成 17 年 3 月 23 日
- ・旅費に関する規程の制定 平成 17 年 3 月 23 日
- ・受託事業に関する規程の改訂 平成 17 年 3 月 23 日
- ・報償費規程の制定 平成 17 年 3 月 23 日

3. 会誌の発行

騒音制御 28 巻 2 号 ~ 29 巻 1 号の 6 冊を隔月で発行し会員に配布した。

1 号当たりの平均ページ数は本文 75 ページで、次の特集を企画した。

- ・ 28 巻 2 号 音響センサ特集 (基礎から特殊センサまで)
- ・ 28 巻 3 号 建築に関わる音響性能測定のための実験施設
- ・ 28 巻 4 号 音の長距離伝搬
- ・ 28 巻 5 号 交通騒音に対する遮音・吸音対策
- ・ 28 巻 6 号 国際騒音制御工学会を中心とする騒音制御への取り組み
- ・ 29 巻 1 号 高齢者をとりまく音環境問題

4. 研究発表会の開催

(1) 平成 16(2004)年春季研究発表会の開催

平成 16 年 4 月 23 日東京工業大学デジタル多目的ホールにおいて、オーガナイズドセッションを取り入れた研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

- ・オーガナイズドセッション担当分科会：アクティブコントロール分科会、環境振動評価分科会、サウンドアメニティ分科会、騒音ラベリング分科会
- ・基調講演論文 4 件
- ・招待講演論文 2 件
- ・一般講演論文 30 件

(2) 平成 16(2004)年秋季研究発表会の開催

平成 16 年 9 月 16 日、17 日の両日、山梨大学甲府キャンパスにおいて研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

- ・一般講演論文 84 件
- ・シンポジウム「環境振動を考える - 苦情の現状と工学会の役割 - 」

- ・カタログ・材料・機器展示
- ・特別講演「ワインの作り方と楽しみ方」
山梨大学工学部長 横塚 弘毅 氏

5. 選奨

(1) 研究功績賞

研究功績賞は、騒音、振動に関し、学術及び技術の進展に特別の功績があると認められる方に贈るもので、平成 16 年度研究功績賞受賞者は次の方に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会で行う。

- ・寺尾 道仁 氏（神奈川大学）
「建築設備の騒音制御に関する一連の研究」

(2) 研究奨励賞

研究奨励賞は、本会の研究発表会で優秀な講演発表を行った新進の研究者、技術者に贈るもので、平成 16 年度研究奨励賞受賞者は以下の方々に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会で行う。

- ・穴井 謙 氏（九州大学）
「遺伝的アルゴリズムによる沿道騒音対策の最適選択手法」
- ・嶋田 泰 氏（三井住友建設株式会社）
「集合住宅の排水立て管からの放射音に関する研究」
- ・仲島 崇博 氏（京都大学）
「アクティブ防音塀の二次音源出力と遠距離場での制御効果の関係」
- ・松井 孝典 氏（大阪大学）
「騒音の経済評価に関するメタ・アナリシス」
- ・森長 誠 氏（大阪大学）
「水辺施設による音環境の不快感緩和効果に関する研究」

6. 特別講演会の開催

平成 16 年 5 月 13 日開催の平成 16 年度通常総会において、次の特別講演会を実施した。

- ・交通騒音振動行政の現状と課題
環境省環境管理局自動車環境対策課 課長 堅尾 和夫 氏
- ・騒音制御・評価をめぐる国際的動向
千葉工業大学音響情報フォーラム 子安 勝 氏

7. 懇談会の開催

会員同士が環境騒音問題を自由に議論し、情報交換することを目的として、次の通り環境騒音問題に関する懇談会を開催した。

第 2 回懇談会を、“音は何故マイナーか”をテーマとして、平成 16 年 4 月 22 日東京工業大学デジタル多目的ホールで開催した。

第 3 回懇談会を“交通騒音の環境基準設定経緯について”をテーマとして、平成 16 年 12 月 8 日東京大学生産技術研究所第一会議室で開催した。

8. 技術講習会の開催

第 54 回技術講習会を平成 16 年 6 月 10 日、11 日の両日、鹿島建設（株）赤坂別館で開催した。

- ・ テーマ：騒音・振動技術の基礎と測定実習

第 55 回技術講習会を平成 16 年 11 月 11 日、12 日の両日、大成建設(株)小ホールで開催した。

- ・ テーマ：騒音対策の基礎と考え方（初心者向け）

9. 研究部会分科会報告会の開催

第 17 回研究部会分科会報告会を 3 分科会（遮音分科会、床衝撃音分科会、不思議音分科会）合同で平成 16 年 6 月 25 日神楽坂エミールで開催した。

- ・ テーマ：集合住宅の音環境に関するシンポジウム

10. 出版

測定法シリーズ「建物における騒音対策のための測定と評価」について、出版の最終調整をした。また、一般向け図書（お話シリーズ）を発刊するための作業を行った。さらに、「騒音制御用語事典（仮称）」の用語項目の具体例を挙げて解説原稿を推敲した。

11. 広報

公益法人としての活動状況を学会ホームページにより公開すると共に、会員に対しては各種の主催・協賛事業や各部会等の開催状況を周知した。

また、学会誌に会員コラムや Q & A のコーナーを掲載し情報提供を行った。

12. 調査研究

音響測定器に関する日本工業規格（JIS）の原案作成及び見直しを行うと共に、音響関連国際規格（ISO、IEC）の審議に協力した。JIS 原案作成の成果として、平成 17 年 3 月 20 日にサウンドレベルメータ（騒音計）が JIS C 1509 シリーズとして制定された。

さらに、次の各機関より委託調査の依頼があり調査研究を行った。

- ・ 東海旅客鉄道(株)「高速鉄道騒音の影響評価に関する調査・研究」
- ・ 環境省「平成 16 年度新幹線鉄道騒音対策検討調査」
- ・ 環境省「平成 16 年度騒音による影響の評価に関する総合的研究業務」
- ・ 環境省「平成 16 年度騒音評価手法及び規制手法等検討調査業務」
- ・ 環境省「平成 16 年度振動評価手法のあり方に関する検討調査業務」
- ・ 環境省「平成 16 年度低周波音測定評価方法講習会開催業務」
- ・ 環境省「平成 16 年度航空機騒音に関する評価方法検討業務」

13. 海外との交流

I-INCE の加盟団体として活動に協力し、総会等に参加した。

海外関連機関等（ICA、WESPAC、INCE/USA）と連絡し、情報を会員に提供した。

2004年4月に京都でICA 2004を日本学術会議、社団法人日本音響学会と共催した。
2006年12月にホノルルで開催予定のinter-noise 2006の準備を共催のINCE/USA
と協力して行った。

Noise/News International Vol.12 No.1～4を有料で配布した。

14. その他

前年に引き続き事務局のOA化を推進した。